

第 61 回伝道研究会 (1 月 29 日)

「ニューヨーク天理文化協会紹介」

伝道研究会では「天理教海外伝道における文化活動」をテーマとし、海外での伝道の現場で文化活動に携わっていた人々を招き、活動の様子や課題、また布教伝道との関わりなどについて議論を行っている。このテーマとしては 7 回目となる研究会では、ニューヨーク天理文化協会会長である福井陽一氏が、同協会で開催しているさまざまな文化活動を、画像を交えて紹介した。

1991 年 2 月 26 日に設立された同協会の趣旨は、地域社会への貢献やアメリカ社会と接点をもつことであり、さらには文化活動を通じての布教があった。また活動には、ニューヨークに対する「恩返し」の思いが込められており、さまざまな人たちの協力を得て、2000 年に現在の場所に落ち着く。

活動の内容はパリ日仏文化協会を参考に、日本語教室やギャラリー展、コンサートなど多岐にわたっている。年 100 回以上を数えるコンサートでは、クラシックやニューミュージックなど幅広い分野の音楽が演奏されている。日本語教室の生徒数は大人 85 名、子どもが 140 名で、ニューヨーク大学や弁護士事務所への出講も行っている。

その他に、英語や中国語、ビジネスマナーのクラスも開講している。昨今は、地域とのつながりにも力を入れ、現在はコロンビア大学やニューヨーク大学、日本領事館や国際交流基金、アジアソサエティなどと、さまざまな形での協力関係を構築しつつある。

これらの文化活動を通じての布教は「底なしの親切」をモットーに、文化協会だからこそできることを心がけている。会員を対象とした教理に関するセミナーやワークショップ、さらには近くの駅前や公園での路傍講演や十二下りのておどりなども定期的に行っている。

(記: 森 洋明)

第 279 回研究報告会 (2 月 10 日)

李京源 (韓国・大真大学大巡宗学系教授) 「天理教の研究調査に際して」

今回の研究報告会では、2 月初めから 2 週間の予定で天理に滞在し、天理教の研究調査を進めている韓国の李京源教授に依頼して、天理教研究の現状報告を行ってもらった。李教授の所属する大真大学は、韓国の新宗教である大巡真理会の創設した大学である。李教授は 2014 年 6 月に台湾の国立政治大学で開催された東アジア新宗教国際シンポジウムに参加し、同じくそのシンポジウムに参加した金子昭と知り合いになり、天理教について関心を持つようになった。

本報告では、実際に天理に来て感じた天理教の印象、また研究調査の過程で生じた疑問などを述べると共に、大巡真理会の歴史や教えについて天理教との比較を交えながら発表を行った。李教授は、今回の研究調査を踏まえ、韓国新宗教学会や国際宗教学宗教学会 (IAHR) 世界大会で天理教に関する研究発表を行うとのことである。

(記: 金子 昭)

第 3 回宗教研究会 (2 月 18 日)

「日本の宗教とセクシュアルマイノリティ」

臨濟宗妙心寺派本山塔頭・春光院 (京都市右京区) の川上全龍氏 (副住職) を講師として、標記研究会を実施した。川上氏は座禅に参加したスペイン人女性の要望により 2010 年に同性の仏式結婚式を行ってから、これまでに 5 組の同性婚を司婚してきた。最近ではホテルグランヴィア京都と同性カップルの仏式ウェディングプランで提携し話題になっているが、「同性婚に特化しているわけではなく、異性婚も執り行う中で自然な流れとして行っている」という。川上氏自身もかつては LGBT について正しい知識がなかったが、友人に同性愛者がいたことや、自らの米国での人種差別の体験から、人種や性的指向といった自分でどうすることもできないことに対する差別として理解するようになったという。しかし 2004 年に日本に帰国したときの現実には、「議題にも上らず可視化されていない状況」であった。自治体レベルでの改善は見られるものの、LGBT の権利は法で守られているわけではなく、メディアの扱いも経済部や社会部どまりで人権の問題としては語られていないという。

仏教と LGBT については、五戒 (殺生、盗み、淫らな性行為、嘘をつくこと、飲酒) 中の「不邪淫戒」はレイプや不倫といった相手を傷つける行為であって同性愛はこれに該当しないのではないかと、指摘した。神道に関しては、日本で最初の結婚式とも解せるイザナギ・イザナミ兄妹の結婚を考えれば、同性婚容認の可能性も開けてくるのではないかと。日本の近代化との関係で言えば、キリスト教的な倫理道徳観が「文明国」の基準になったことと徴兵制の登場が同性愛に対する不寛容を推し進めた、と述べた。「日本の宗教に求められているのは、時代にあった經典の注釈や新しい教えであって、戒律で人を縛りつけるのではなく、幸せの後押しをするのが宗教家の仕事ではないか」と結論づけた。

(記: 金子珠理)

(From page 13)

are requested to take part in some functionality to enable the organizing of citizen empowerment. In this regard, fund-raising to support its activities has become an issue particularly for NPO, but there are many organizations that do not actively engage in fund-raising. Raising funds involve articulating the organization's mission and disseminating its activities and relevant information and thus increasing a sympathetic following. It is an opportune moment for self-empowerment but many organizations are shying away from such opportunities. Fund-raising that leads to citizen's self-empowerment is a theme that requires further attention.

**Masato Fujiwara — Laïcité and Tenrikyo's Mission in France (2) What is Laïcité? [2]**

A dictionary's definition of laïcité states, "non-religious, secular, separation of church and state," as well as "a state that refrains from any religious authority and a church that does maintain any political power. Separation of civil society and religious society."

Laïcité is often used without translation, and is difficult to express in a single Japanese term. The fundamental principle of laïcité is the freedom of belief and the equality of rights; it is a rational compromise where religion must not dominate civil society and where there is equality in establishing one's rights and a respect for the principle of non-discrimination. Phrases such as separation of church and state and non-religiosity appear to have negative views of religion. However, laïcité does not imply the abolition of religion but rather a freedom of choice in regard to religion.